



～浸種作業について～

3月も中旬に入り、間もなく春作業に向けた準備が始まる頃となりました。2年連続となる収量減を繰り返さないよう、徹底した管理を行っていきましょう。

浸種作業は水温が10～15℃を確保できる4月上旬から開始して下さい。積算温度は100℃とし、低温での浸種は行わないようにしましょう。低温での浸種は消毒効果が低下したり、休眠性が深まる場合がありますので注意が必要です。浸種時の水量は種子1kgあたり3.5Lとし、水交換は期間を通して2～3回行いましょう。また、薬剤吹付・塗沫種子では浸種開始後2日間は水を交換しないようにしましょう。

積算温度とは？

浸種をしている水の日平均温度の積算を言います。

1日の平均水温が10℃だった場合、積算温度が100℃になるのは浸種開始日から10日後となる。

注意

- ①温湯消毒種子や薬剤種子等の消毒方法の異なる種子を同じ容器で浸種しないで下さい。
(薬剤効果が低下し、病原菌の発生につながります)
- ②複数品種の同時浸種も行わないで下さい。
- ③前年度に使用した容器・機器は必ず、清掃・洗浄してから使用して下さい。
(前年度の雑菌や保管時に籾殻が付着している場合、ばか苗病発生のリスクが高まります)

～催芽について～

ポイント

- ①種子を36～40℃で湯通しする。(種子ネット内部まで温度が均一となり、芽揃いが良くなります)
- ②水温は30～32℃で行う。
- ③発芽の程度(芽の長さや芽切れの揃い)に注意する。
(芽が長すぎると、損傷や播種量のバラつきや播きムラの原因となります)

稲作情報メールについて

今年度も稲作に関する情報の配信を行って参ります。栽培に関する情報だけでなく、台風等による自然災害時の緊急情報も配信しますのでご登録お願い致します。

稲作情報メールの登録はこちらのQRコードか秋田しんせいのホームページからお願いします。

